



菅原 雅樹

日本ユニシス株式会社

総合技術研究所 イノベーションラボ

室長

知識資産を活かす日本ユニシスの取組

プロフィール

1991年に日本ユニシス株式会社に入社。1991年～1999年の9年間は、電力関連ユーザのシステム化提案からアプリケーションの設計、開発を担当する。2000年には、電力会社が出資する国内最大規模の資機材調達イーマーケットプレイスの開発に参画する。2002年からエネルギー業界向けソリューションの企画・開発・販売と、そのコンサルティングに従事する。

2009年4月に現所属である総合技術研究所に異動し、新技術の評価・適用、応用技術開発に従事、現在に至る。

講演概要

約10年前から知識資産を重視した経営戦略を打ち出し、組織の中の知恵や経験を集約して再利用する仕組みづくりに全社的に注力している弊社の取組について、総合技術研究所 イノベーションラボ ナレッジセンターの活動を中心に紹介します。

弊社では、グループを取り巻く環境の変化による「個人力の限界」や「ビジネス戦略の転換期」を捉え、知財に対応する部署を設置しています。5年程前からはそれまでの価値創造を追及することに加えて知識集約に重きを置き、「知財活用と生産性向上により、市場競争力と収益力の極大化を目指したサービスビジネス戦略」を採っています。「日本ユニシスグループ知財ナビゲータ (UNI-NAVI)」サービスを開始することにより、ナレッジのデータベース化やUNI-NAVIの活用促進等、知財化PDCAサイクルを推進しています。

UNI-NAVIは、「集める・蓄積する」「探す」「尋ねる」「見渡す」のサービスで成り立っています。「ナレッジDB (WitsPartner)」「ナレッジコンシェルジュサービス」「営業支援ポータル」「業務知財ポータル」等の知財の蓄積と活用に向けた全社的な仕組みを説明した後、弊社の知財活用状況と今後に向けた課題を報告します。

最後に、弊社がこの5年の取組で得た「知財の蓄積とその活用を通じた企業競争力の強化」に向けた勘所を考察します。